

三重県鳥羽市神島における通過儀礼の変遷

—離島の少子高齢・過疎化について

尤 銘 煌
(社会学)

一. 緒言

1908年にArnold van Gennep (1873-1957) が人の一生の、妊娠から誕生、生育、成人、結婚、死などの折節の通過時に行う儀式を「通過儀礼 (les rites de passage)」と呼んだ。それ以来、日本の民俗学者、人類学者、社会学者などもこの用語を使うようになった。通過儀礼の考察は、単なる儀礼だけではなく、家族、親族、地域関係や広い社会問題、宗教などにも深く繋がってくる。近年の急速な少子高齢・過疎化は伝統的な通過儀礼に変化を持たらした。

故に、いち早く少子高齢・過疎化に見舞われた離島を研究すれば、日本の未来が予測でき、これから直面するさまざまな課題を解決するヒントが見つけれられると考える。東日本文化圏と西日本文化圏の中間位置にある東海地方を調査すれば、日本の平均的な状況を見出すことができる考えた。

そこで、東海地方の代表的な離島である三重県鳥羽市神島をフィールドとして、現代社会において最も重要な課題である少子高齢・過疎化と伝統風習（通過儀礼）を考察することとした。

二. 神島の概況

1. 気象・地理と生活環境

三島由紀夫の小説「潮騒」の舞台になったことで一挙に有名になった神島は伊勢湾の人口に位置し、東は渥美半島、北は知多半島、西に鳥羽を望み、遠くに鈴鹿連邦も望まれ、伊勢神宮へ献上品を運ぶルートとして古くから重視された。古墳時代から室町時代にわたる祭祀遺物（銅鏡、馬具、容器など）が発掘され、島の八代神社に保存されて国の重要有形文化財になっている。

神島にアクセスするには、二つのルートがある。一つは鳥羽の佐田浜港から神島までで市営定期船で約48分かかる。平成20年4月22日に新しい定期高速船「きらめき」の就航により佐田浜港から神島までは36分になった。もうひとつは、愛知県の渥美半島伊良湖岬より神島観光船で神島まで約15分で着くルートである。

四季を通して気候は温暖である。島は周囲4キロ、面積0.76平方キロで標高171メートル

の灯明山の山頂を中心とする小さな島で西側斜面に民家が密集する漁村である。島内には、階段が多く道は迷路のようになっている。複雑な回遊路は神島の文化を象徴しているとも言える。

昔、島では、南セコ（部落）、中セコ（部落）、東セコ（部落）に分けられていた。各セコに荒神さんが置かれている。それをまとめて町内会が設置されている。町内会はさらに4常会に分けられて1常会は約6組で1組は6-10軒がある。島内では、坂が多く交通として自転車よりもバイクの方が便利である。診療所と郵便局が1箇所あり、雑貨屋2軒がある。一方、戦後になってから交番が撤退した。銀行と道路の信号がない。

2. 経済

島民は主漁業副観光業に従事している。畑は自給自足のみでほとんどない。漁業では、刺し網、蛸壺、巻き網、採貝（海女）、一本釣りなどが主な仕事で典型的な漁村である。釣り客、渡り鳥サシバ（タカ的一种）の観察、散策などを目的に観光客が多い。町おこしとして平成12年に「スカイフェスタみえ2000」、「俳句ウォーク in 神島」などを行い、「俳句の島」、「潮騒文学の島」を外へアピールした。また、2006年10月2日に静岡市NPO法人、地域活性化支援センターのプロジェクトに、「恋人の聖地」に選定されたのを機に若者の観光客が増えた。旅館は3軒で民宿は4軒があるが、日本の経済不況などにより毎年、観光客の数が減少している。

観光客入込客数（人）¹

年 度	神 島
平成4年	31,800
平成13年	27,900
平成16年	25,700
平成17年	25,200

3. 人口構成の推移

神島には高校がないので、中学生から進学する者は鳥羽市か伊勢市の高校に通っている。若者が高校を卒業後、都会で就職したり、大学へ進学して後、島には戻らないのが一般的である。1953年に神島の人口は最多の1,405人であったが、それ以後は人口がだんだん減ってきて、2008年4月に468人になり、高齢化率は39.5%である。55年間の間に島の総人口が七割も減った。2007年8月末現在では、小中学生は30人（中学生：17人、小学生：13人）で保育児は4人いる。人口減少に歯止めが掛からない。漁業以外に他の仕事はほとんどないため、今のところ、本島からの定住者はいない。

三重県鳥羽市神島における通過儀礼の変遷
— 離島の少子高齢・過疎化について

神島における人口と戸数の変遷²

年 代	人 口	戸 数	男 女 別
1920	740	169	男327、女413
1930	1,012		
1940	1,215	202	男583、女632
1950	1,318	230	男714、女604
1953	1,405	239	
1960	1,351	255	男674、女677
1970	1,200	235	男566、女634
1979	956	237	男462、女494
2001.3	564	209	男266、女298
2008.4	468	189	男209、女259

三. 神島における通過儀礼の変遷

1. 妊娠、出産儀礼

- a). 帯祝い：帯あげとも言う。昔、田中こよしという助産婦が、お産で島の子どもを全てとりあげていた。妊娠5カ月になった戌（犬）の日に安産祈願もこめて帯祝いとして妊婦のお腹にさらしを巻いた。田中さんが1980年、83歳の時に亡くなった後は、島民は鳥羽か伊勢の病院で出産するようになり自宅での帯祝いは行われなくなった。今では、5カ月の戌の日に病院の看護師がさらし（市販されている腹巻き）を巻いている。しかし、現在では、帯祝いは医学的に意味がないことを証明する病院が多くなってきている。
- b). 帯びやのかと：産後、親戚、隣近所が卵、豆腐、果物などを妊娠婦に持参した。今では、果物、ケーキ、ヨーグルトなどに変わった。
- c). 井あがり：子どもが生まれてから11日目に子どもを抱いて大橋を渡って共同洗濯場で初めて子どものおむつを他人に洗ってもらった。その後、共同洗濯場で赤ちゃんの洗濯物を洗うことができた。今では、この風習は行われていない。

2. 幼年期と年齢に関する儀礼

- a). 命名式・七夜：子どもが生まれてから7日目に内祝いを行う。出産祝いとしてお祝い金を持参する。新しい名前を書いた半紙は恵比寿棚に貼って祀った。
- b). 食い初め：子どもが離乳食前（子どもが生まれてから3-4ヶ月）に行われる。オコゼ

¹ 「三重県離島振興計画 平成15年度～24年度」 三重県政策部地域づくり支援室、2003. 3. p.11.

² 田辺悟、田辺弥深子『潮騒の島—神島の民俗誌』、光書局、1980. p.236.

鳥羽市役所ホームページ <http://www.city.toba.mie.jp/>

を子どもに食べさせるまねをする。山岳信仰が深い漁村においてはオコゼをお食い初めの時に使わせる。その理由はオコゼの顔は醜くて頭がデコボコで山の神様を象徴し、肉も柔らかいし食べやすいからである。また、オコゼを食べると食あたりをしない、歯が丈夫に生える、子どもが丈夫に育つ、厄除けなどの理由もある。

- c). **宮参り**：子どもが生まれてから男女とも110日目に八代神社へ宮参りに行って賽銭をあげ、子どもの安全と健康を神主に祈願してもらう。宮参りによって子どもは初めて氏子になれる。
- d). **誕生祝い**：満1歳までに既に歩ける子どもは2、3キロのもちを背負わせる。そして、祝い餅を子どもの足脛に投げて転がす。これは親の脛をかじらないでわんぱくに成長するように行われる儀式である。
- e). **初節句**：3月3日の「桃節句」に男女の区別なく桃の花を取って神棚にお供えして御神酒を差す。赤飯を炊いて内祝いを行う。紅白の餅を親戚、隣近所に配る。雛人形飾りは行わない。端午の節句について5月5日の午後に菖蒲、蓬、いたどり、茅を1本ずつまとめて稲藁で縛ってそれを神棚、屋根、恵比寿棚、船霊様、海様、荒神などに供える。1年の月の数12本を作る。男の子の祝いとして鯉幟をあげてその先にも付ける。鯉幟は子どもが3歳になるまで立てる。赤飯は神棚にも供えて親戚、隣近所に配る。また、菖蒲湯にも入る。武者人形は飾らず、粽も作らない。
- f). **七五三**：11月15日に男女の区別なく、3、5、7歳の子どもを連れて神社へ参りに行く。男女の区別なく3歳の子どものいる家では、身内と親戚などを呼んで祝う。昔はおはぎを配ったが、現在では、お菓子を親戚、近所、祝ってもらった人々に配っている。
- g). **成人式**：昔、成人式に当たる青年団（中卒から25歳まで）があったが、約18年前になくなった。かつて青年団は各セコに東支部、中支部、南支部に置かれていた。各支部にネヤコと呼ばれる建物が建てられて青年の泊まり場所となっていた。現在、鳥羽市民会館で成人式が行われる。2008年では、約7人が成人式に迎えられた。
- h). **厄払い**：厄年（数え年で女：19歳と33歳、男：25歳と42歳）の者が居る家では、おはぎを作って近所に配る。本厄の人はおこわ、饅頭、カステラなどを配った人もいる。2月初旬に朝3、4時頃に、厄年の男女ともに神社へ参りに行く。自分か親戚に書いてもらった「走り馬」の絵馬を神社の指定の場所に奉納する。参拝後、後ろを向いて賽銭を投げてから帰宅する。帰宅途中に人に会っても言葉を交わすことはしない。また、男の人は厄年に家を建てないし、船を造らない。家に厄年の人がいたら、家を修理してはいけない。男は前厄（41歳）、本厄（42歳）後厄（43歳）の三年間厄が続ける。
- i). **長寿祝い**：1月4日午前10時頃に数え年77歳の喜寿、88歳の米寿の人が振り袖と着物を着て八代神社へ参りに行って、神主に健康と長寿の祈願してもらう。数え年61歳の還暦祝

三重県鳥羽市神島における通過儀礼の変遷 —離島の少子高齢・過疎化について

いとして団体旅行を行うことが多い。旅行へ行く前に各セコの荒神さまの前でお金を撒く。77歳の喜寿祝い及び88歳の米寿祝いの時に神社、お寺に参拝して、そして道中や浜の各荒神さんの前でお金を撒く。島の人々がお金を拾いに行き、拾ったおめでたいお金をうちへ持って帰る。その後、それぞれ祝宴を行ったり、旅行へ行く人もいる。還暦の人が子どもから贈られた「ホンケ返り」という赤い帽子、ネクタイ、チャンチャンコなどを着る。また、老人会（70歳以上）では、毎年9月15日の敬老の日に長寿祝賀会が行われる。それ以外に3月25日に敬老会が行われる。村中の70歳以上の人が参加する。2007年の長寿祝賀会は都合の関係で9月20日に行われた。

3. 結婚儀礼

昔、男女の交際は常にネヤコで行った。島の結婚式は3日間かかった。まず、婚礼の日に樽入りが行われる。男性の方がお酒、出世魚（ぶり、はまちなど）などを持って女性の方へ訪ねて行く。そして女性のところで樽開きが行われる。親戚、友人などが集まって祝宴を開く。二日間目に結婚式を行う。仲人は提灯を持って婿を連れて嫁を迎えに行く。3日間目に後片付けする。現在の場合は、鳥羽か伊勢の結婚式場かホテル内で行うのが一般的である。結婚相手も島内から本島へ変わった。仲人もほとんど立てなくなった。特に1953年頃から、島の人口が本島へ流れてゆくに伴って島外婚が増加した。

伝統的な結婚式がほとんど消えた神島では、「仮親」制度はまだ残っている。即ち、結婚相手は本島の人であれば、本島の人が神島の「仮親」を見つけなければならない。仮親は実親と同じように一生付き合う。

ちなみに、昭和25年（1950年）から今まで島で神前結婚を行ったのは4組しかなかった。2007年4月に32年ぶりに八代神社で神前結婚式が行われたが、披露宴は鳥羽で行われた。

4. 葬送儀礼

本島で亡くなったら、船で遺体を島まで運んでくる。親戚一人と近所の人一人が世話役として葬儀のお手伝いをする。島で火葬してから通夜が行なわれる。桂光院で葬式を行ってから葬列を組んでお墓に行く。島に住職がないので、鳥羽市白木町の地福寺の水川泰憲住職にお経を唱えてもらう。棺、骨壺、死人装束などの小道具を鳥羽磯部漁業協同組合に依頼している。他、葬式の道具は村で準備する。隠居衆は僧侶の代わりに役割を果たしている。普段、葬式の時に僧侶一人のみで行われている。

- a). 末期の水：身内が亡くなった人に水をあげる。
- b). 湯灌：神島で亡くなった場合は、親戚の女性によって行われる。
- c). 通夜：夜7時頃から10時頃までに離島センターで行われる。その時にお茶、お菓子を出

す。僧侶の後に念仏ばあさんが御詠歌を唱える。

- d). **香典**：身内は5-10万円で一般の人は5千円である。
- e). **香典返し**：町内で決めた香典返しは四十九日を終えてから札状はがき1枚のみである。
- f). **葬式組**：葬式組はない。葬式組の代わりに親戚、隣近所が手伝いに行く。
- g). **葬列**：葬列の順番と役割は以下のようなものである。
 - 火持（遺族）
 - 白旗（隠居衆）
 - 連華、木燈、しきび、供え物（各二人、近い親戚、従兄弟など）
 - 僧侶
 - 大傘（親戚）
 - 写真（死者の子ども）
 - 位牌（喪主）
 - 枕膳（一番上の孫）
 - 膳網（嫁、子どもなどの女性）
 - 骨棺（一人、親戚）
 - 天蓋（一人、姉婿か長女の婿）
 - 四花（一人、喪主の子ども）
 - 華（70歳以上の人が野辺送りの途中に10円、50円、100円などのお金を撒く。）
- h). **穴掘**：世話役二人が藁草履を履いて穴掘を行う。穴掘が終わってから藁草履を足洗い場に置いておく。世話役が水で洗ってから裸足で帰り、家でお酒を飲んで清める。それから、初めて魚料理を食べられる。
- i). **仕上げ**：初七日の時に親戚のみ集まり自宅で行う。葬式が終わるまで精進料理のみ出す。
- j). **お墓**：昔は両墓制だった。現在では、共同墓地は一つのみで無料である。
- k). **葬式に関する迷信、言い習わしとタブー**：
 - 友引、毎月の一日に葬式を行わない。
 - 宮持と新宮持は不幸の家があった場合は、島の行事に参加することができない。
 - 宮持はお葬式、墓参り、お寺、出産の家と関わってはいけない。
- l). **法要**：葬式当日に初七日の法要のみを済ませてしまう。その次は三十五日、四十九日の法要がいっしょに行われる。それから、1, 3, 7, 13, 17, 23, 27, 33, 37年忌で50年忌まで行われる。
- m). **念仏講**：各セコに1組がある。葬儀の時に念仏をあげたり、葬儀費用の助成にも行われる。先に葬式を行った人が1軒ずつ100円を徴収して葬式の家へわたす。
- n). **服喪期間**：

三重県鳥羽市神島における通過儀礼の変遷
 ー離島の少子高齢・過疎化について

(服喪期間、戒名などは宮持が持有している『年中祭礼行事実施要綱』より)

服喪期間には、結婚式に参列しない、神社に参らない、年末、年始の挨拶をしない。

妻	夫	曾又は高 祖父母	継父母	養父母	祖父母	父 母	死亡者
二十日	三十日	二十日	十日	三十日	三十日	五十日	忌
九十日	九十日	九十日	三十日	百五十日	百五十日	十二月	服

従兄弟 姉妹	甥 姪	同母方	伯叔父 母	兄弟姉 妹	右以外 の孫	嫡 孫	養 子	嫡男以 外の子	嫡 男	死亡者
三日	三日	十日	二十日	二十日	三日	十日	二十日	十日	二十日	忌
七日	七日	三十日	九十日	九十日	七日	三十日	九十日	三十日	九十日	服

平成18年4月に島の条例により少子高齢化、過疎化などの原因で服喪期間を以下のように短縮した。

夫の父母	曾祖父母	祖 父 母	父 母	死 亡 者
二十日	二十日	二十日	五十日	忌
末 子	嫡 子	妻	夫	死 亡 者
十日	二十日	二十日	三十日	忌
甥 姪	従兄弟姉妹	兄 弟 姉 妹	伯 叔 父 母	死 亡 者
三日	三日	二十日	二十日	忌

o). 戒名：戒名代は以下のものである。一般的に檀家総代と僧侶と話したうえで戒名を決める。

位 階	仏具代 (戒名代) 一壺	詞堂金 (一壺)
院号 (軒、齋、室)	30万円	一律10万円
居士、大師	15万円	
庵主、法尼	13万円	
清浄上、清浄女	12万円	
信上、信女	5万円	

その他：導師布施：15万円、役僧布施：6万円 (旅費、駐車料金含む)、法事：2万円、年忌：5千円

四. アンケート調査概要

2008年7月5-6日に神島へ現地調査した時、元鳥羽市議員藤原喜代造氏に「島民の通過儀礼及び少子高齢・過疎化問題」についてのアンケートの実施を依頼した。2008年9月1日に20名、そして2008年10月13日に27名で合計47名の島民から回答があった。回答者の年齢は、20代1名、30代5名、40代6名、50代9名、60代8名、70代15名、80代1名、無記入2名で

ある。性別は男性32名、女性13名、無記入2名である。職業は漁業22名、会社員11名、無職8名、公務員1名、自営業1名、無記入4名である。回答者数は神島の全人口数の約1/10にあたるので、アンケート調査結果の正確性は高いと思われる。以下、「島内にどんな通過儀礼が残っているか」、「行われなくなった通過儀礼?」、「どんな通過儀礼を一番残してほしい」、「島に住んで一番困っている問題」、「島が直面している一番の問題」などの各項目の結果を概観し、今後の課題について考察する。

1. 通過儀礼の変貌について（複数選択）

項目	どんな通過儀礼が残っている	行われなくなった通過儀礼	どんな通過儀礼を一番残してほしい
帯祝い	9	10	1
出産祝い	36	2	13
お七夜、命名式	35	5	11
お宮参り	17	4	7
お食い初め	17	8	2
初節句	31	5	13
初誕生日	12	3	5
七五三	33	5	24
成人式	28	6	9
厄払い	36	3	11
長寿の祝い	41	4	27
結婚儀礼	30	14	22
葬送儀礼	39	5	24

以上のように島に残っている通過儀礼と思われる上位順は長寿の祝い（41人）、葬送儀礼（39人）、厄払い（36人）、出産祝い（36人）、お七夜、命名式（35人）、七五三（33人）である。島で行われなくなった通過儀礼と思われる上位順は結婚儀礼（14人）、帯祝い（10人）、お食い初め（8人）、成人式（6人）である。そして通過儀礼を一番残してほしい上位順は長寿の祝い（27人）、葬送儀礼（24人）、七五三（24人）、結婚儀礼（22人）である。島における長寿祝いの大切さがアンケート結果に現れた。少子高齢・過疎化及び、結婚式場、出産場所、成人式の本島移転により結婚式、帯祝い、成人式が島で行われなくなった。反対に少子高齢・過疎化の改善により七五三、結婚儀礼が島に残してほしいというアンケート結果及び島民の期待が読み取られて今後の大きな課題になる。

2. 島に住んで一番困っている問題&島が直面している一番問題

「あなた自身が島に住んで一番困っている問題は何ですか」の質問について「交通の利便性が悪い」、「定期船の本数が少ない」、「定期船が欠航する事」など9名は交通に関する問題

三重県鳥羽市神島における通過儀礼の変遷
— 離島の少子高齢・過疎化について

と「病院（歯医者、耳鼻科など）がない」、「救急の時の対策」など9名は医療に関する問題が第1位に挙げられる。「後継者がいない」、「若い人が少ない」など8名は少子高齢・過疎化に関する問題が第2位である。そして「生活用品が高い」、「コンビニがない」、「食品店の品数が少ない」という日常生活に関する問題に答えた人が4名いた。その他、「嫁不足」3名で「安全、安心な港を作ってほしい」が1名であった。

一方、「島が直面している一番の問題は何ですか」の質問に対して「少子高齢・過疎化」を答えた人が最も多くて30名もいた。その他、「仕事がない」と「女性の働く場所が少ない」6名、「嫁不足」4名、「学校の存続」2名、「後継者」1名、「食品、日用品などの物価が高い」1名、「医療」1名などの答えがあった。両質問に「少子高齢・過疎化」を答えた人を合わせると38名に達した。島における少子高齢・過疎化の深刻さが伺われる。

3. 本島に引っ越すこと&祖先代々のお墓を本島へ移すこと

「将来、本島へ引っ越すことを考えていますか」を求める質問には、「子どもが島外で生活している」、「不便が多くなる、安心安全が確保できなくなる又は少なくなる」、「どちらとも言えない」という将来、本島へ引っ越すことを考えている人が9名いた。本アンケート全員回答者47名の約1/5を占めている。島における少子高齢・過疎化対策をそのまま放置されれば、島の人口がさらに減少してゆくとアンケート調査結果から判明される。一方、「祖先代々のお墓を本島へ移すこと」の質問に対して1名のみは子どもが島外に住んでいるので、考えていると答えた。住民の減少により、墓を守る余裕がなくなったという例は他過疎地や離島などでよく見られるが、墓を移すことは住民が島から完全に離れることになると思われる。墓を島外に移すことによって、里帰りの必要性はなくなり、逆に島の住民は島外の墓参のために、島から出ていくことになる。その結果、里帰りの効用が低下して、「故郷」の意識も急速にさめていく恐れがある。これは、島の住民にとって深刻な問題だといわざるをえない。³この点について神島の島民は将来、本島へ引っ越すことを考えている人が多いが、完全に島から離れることを考えている人はほとんどいない。

4. 少子高齢・過疎化対策&政府がどのような対策を講じている

島民が考えている少子高齢・過疎化対策で最も多いのは、「漁業以外の仕事を増やす」、「若い者の働き場所を作る」など（15名）、花嫁対策（7名）、その他、企業誘致、漁業振興、産業促進、定期船の増便、医療整備、学校を残すなどである。仕事場の確保及び花嫁対策が最も大事であるとアンケート調査結果から考えられる。その一方、政府がどのような対策を

³ 尤銘煌、杉山誠「山形県酒田市飛島における通過儀礼の変遷—離島の過疎化、少子高齢化について」『山形大学紀要（人文科学）』, 16 (2), 2007. pp.53-pp.61

講じているかとの質問に対して、「何もしていない（12名）」、「わからない（6名）」、「十分な対策が講じられていない（2名）」、「感じられない（1名）」との答えがあった。離島振興法を答えてくれた人は一人のみにとどまった。ほとんどの島民は政府が離島における少子高齢・過疎化対策をほとんど講じていないと考えている。政府は離島振興をもっと力に入れるべきだと思われる。

5. 通過儀礼を島に残す一番の方法

「通過儀礼を島に残す一番の方法は」どうしたらよいか意見を求める質問には、島に人が残ると島民を増やすこと（10名）、島民の助け合い、信頼（5名）、若い世代に儀式的持つ意義、背景、歴史を伝えること（2名）、儀礼の簡素化（2名）の答えがあった。その他、島民の気持ちを大切に、島民の理解が必要、冠婚葬祭場を建てることなども各1名が答えてくれた。以上の答えをまとめてみると通過儀礼を島に残す方法として、やはり少子高齢・過疎化対策が最も重要である。その次は島民に理解を求めて互いに助け合うことである。

五. 考察

初めて神島へ調査しに行った時に最も魅せられたのは素晴らしい景色であった。斜面に建てられた建物棟の裏路地が迷路のようで迷わされた。その景観は台湾の有名な観光地である台北県九份（廃棄された鉱山村で映画の舞台になり、太平洋を眺望できる）に匹敵する。また、聞き取り調査を協力して頂いた島民の人々の気さくな気質に魅かれた。そして、伝統的な儀式、年中行事などは、今まで調査した他離島と較べるとその数がまだ多く残されていることに驚いた。明治三十四年七月に柳田国男の『遊海島記』を初め、神島に関する研究書、調査資料、論文などがたくさん出されている。民俗学者や社会学者などにとって神島は研究対象の宝庫である。この調査結果を踏まえて以下のような考察をした。

1. 日本伝統文化の原点：高齢者を敬う宮持・隠居衆制度

島の一つ主な特徴は、古くから伝えられてきた宮持・隠居衆制度の存在である。隠居衆になる前に宮持を経験しなければならない。宮持は「神社の守り神」として島内に神社に関わる主な行事を担当している。宮持の候補者は子持ち、夫婦とも健在、年齢順など厳しい条件が課されているが、少子高齢・過疎化の影響を受けて、宮持になるための厳しい条件が緩和された。また、宮持の期間が3年から2年に短縮された。宮持を終えてから、隠居衆を象徴する杖が初めて持たされる。隠居衆以外の人は杖についてはいけない。隠居衆は各行事に参加する時に必ず、杖を突かなければならず、そして正座、正装（羽織、袴）で行う。一度、隠居衆になったら、亡くなるまで肩書が付いている。

一般的に「隠居」とは、家長が家督権を継承人に譲渡して自ら悠々自適な生活を送ること

三重県鳥羽市神島における通過儀礼の変遷
— 離島の少子高齢・過疎化について

を通念として取られている。「隠居」の研究を始めたのは、大正4年に出版された穂積陳重の『隠居論』であった。穂積は「隠居」の性質、要件及び身分、財産、訴訟上などの効果を法制史・法学的な観点から論究した。その後、民俗学・社会学の研究が進みられて「隠居」は主に「隠居分家」という家族の居住形態と「村隠居（隠居衆）」という一定な年齢に達した人物が村落運営から引退する二つ異なる種類の研究が行われた。大間知篤、竹田日が現地調査により日本列島の各地の隠居慣行を明かにした。大間の研究では、隠居制は東北日本に薄く、西南日本、特に太平洋側によく見られていることを指摘した。⁴竹田は明治民法における隠居の条件は満六十歳以上であることが各地の慣例と一致することを指摘して「還暦隠居」と名付けた。いずれにせよ、神島の隠居衆になれば、村落行事の運営から退き、何もしなくてもよいと考えがちであるが、逆に仕事が増える。隠居衆は神社に関わる行事に参加するのみではなく、今まで宮持が参加できなかった寺、葬儀関係などにも参加しなければならない。

現在、島では、隠居衆が10名（2008. 7. 5現在）いる。島に何かトラブルなどがあった場合は、隠居衆が調整役を担っている。島の葬列慣習を見ると僧侶よりも隠居衆の順番の方が前になっている。島における隠居衆の地位の高さが伺われる。隠居衆は一種の長老制で島に不在の僧侶や警察などの替わりに役割を果たして島の経済、治安、助け合い精神などに役に立っている。「神島の大将」とも呼ばれている隠居衆の格と価値の高さが伺われる。神島の隠居衆制度は全国的には非常に珍しい伝統風習であると思われる。

昭和60年2月19日に三重県志摩市答志島の寝屋子制度が志摩市の無形民俗文化財に指定された。その寝屋子制度は今でも答志島の一つ主な特徴となっている。神島のネヤコ制度は既に消滅したが、神島の隠居衆制度も政府に無形民俗文化財の申請をすれば、神島の伝統風習を保存できるし、全国にアピールすることもできると考える。島の一つの特色にもなれると思われる。一方、少子高齢・過疎化は島の伝統行事に影響を及ぼしたのみではなく島の通過儀礼、寺院、宮持・隠居衆制度の存続など、さまざまどころまでも密接に関連している。かつて、「七重の膝を八重に折っても」、「隠居のねじばかま」と言われるように隠居衆が出れば、何でもおさまる。⁵隠居衆は絶大な尊敬を浴びていたが、平成13年頃に高齢などの原因で、隠居衆仲間入り前の宮持を辞退せざるを得ないことが発生した。また、昭和23年に和歌森太郎の調査報告「神島の村隠居」に宮持の呼び方及び役割を「村隠居、氏神の爺、口米の爺、八幡の爺」などに分けられたが、昭和48年に萩原法子の『神島』に宮持の呼び方は「口米の爺、お礼参りの爺」という言葉しか使わなかった。現在では、「宮持」のみが使われている。呼び名が統合されることから儀礼の簡略化が伺われる。無論、伝統儀礼も時代の流れに変化せざるを得なくなった。しかし、神島の古き良き伝統風習を守り続けるために、少

⁴ 神奈川大学日本経済史研究会『日本地域社会の歴史と民俗』雄山閣、2003. p.2.

⁵ 萩原法子、萩原秀三郎『神島』井場書店、1973. p.7.

子高齢・過疎化という根本的な問題を解決しなければならない。

神島における高齢者を敬う気持は隠居衆、宮持制度以外に以下のようにいくつかの儀式からも見られる。まず、1月4日の年祝い、3月25日の敬老会、そして9月15日の敬老の日に長寿祝賀会が行われる。その数が他地方よりも多い。そして年祝い及び葬式における野辺送りの時にお金を撒く儀式からも高齢者を敬うことが見られる。葬式では、撒き銭の呪力によって厄払いを行う。年祝いでは、撒き銭により長寿にあやかれる。島民によると撒き銭は高齢者の島に対する恩返し行為である。即ち、島民に財産を分けるとも言える。いずれにしても、この撒き銭を行えるのは七十歳以上の人でないと資格を持たない。また、昭和52年に三重県無形民俗文化財に指定された島のゲーター祭を初めとする年中行事のほとんどは高齢の宮持・隠居衆が中心的な役割を果たしている。

それ以外、神社行政資料では、大正十三年頃に出版した『八代神社略誌』の「八敬神修養美談及氏子村落の習俗」には、「村落ノ習俗、風俗ハ既シテ質素ニシテ長者ヲ敬ヒ共同心ニ富ミ」と書かれている。⁶ 島では、高齢者に対する敬う意識は古くから存在していた。そして「どんな通過儀礼が残っている」及び「どんな通過儀礼を一番残してほしい」というアンケート調査結果が示したように「長寿祝い」はいずれも第1位を選ばれた。高齢者を敬う島民の意識の高さは今でも伺われる。

2. 神島における通過儀礼の特徴：

神島の通過儀礼は、時代とともに少しずつ変化及び省略が見られるが、全体的にまだ、伝統儀礼を守っている。

- a). 時代の流れに一番早く変化したのは出産儀礼である。かつて、助産婦が僧侶と同じように島民の精神的相談役としての役割が大きかった。田中こよしさんのように神島で約60年間1,800人の子どもを取り上げた。出産のみではなく、出産後にも子どもの家族との交流が続いたからだ。一方、現代社会では、本島の病院で出産を行うので、出産後、産婦と看護師及び医者との交流はほとんど無くなった。即ち、産婆は島民の産後健康及び精神のカウンセラーにも務めていた。
- b). 幼年期と年齢に関する儀礼について最も興味深いのは、初節句における三月三日の桃節句及び五月五日の端午の節句に雛人形、武者人形を行わないことである。初節句はもともと平安時代に中国から日本に伝わってきたが子どもの節句ではなかった。中国では三月三日は忌日として踏青（郊外へ旅行）、曲水の宴などの厄祓い行事を行った。一方、「中国の曲水の宴と日本本来の祓えが習合して巳の日の祓えとなり、人形や撫で物に身体の穢れを

⁶ 阪井正斉「敬老神話の発生—民俗調査資料に描かれた「敬われる老人達の島」神島—」『皇學館大学社会福祉論集』第5号、2002. p.49.

三重県鳥羽市神島における通過儀礼の変遷
—離島の少子高齢・過疎化について

移して海や川に流すようになった。幼児の穢れを祓い、さらに美しく着飾って幼児と遊びを共にした雛が、現在のように雛段の上に鎮座するようになったのは徳川家康の孫、東福門院が子どものために作った座り雛がそのはじめであろう⁷

また、かつて中国では、五月五日は午日（忌日）として香包を作り、葉草を摘み、菖蒲をひたした酒を飲み、蓬で人形や虎を作って門にかけるなどの厄祓え行事を行った。日本では中国の影響を受けながら、平安時代に近衛府で騎射（うまゆみ）を行い、鎌倉時代になると「菖蒲」が「尚武」に通じるという縁起のため武士の間にも盛んになって流鏝馬（やぶさめ）などが行われ、室町時代には兜人形が作られ、江戸時代になると男子の健康と出世を祈って鯉幟を立てるようになり、端午の節句は男子を中心とする祝い日へと変わっていった。⁸神島では、海に囲まれている厳しい環境の中で派手な人形飾りなどよりも初節句の古来の役目である厄払い儀式を選んだのではないかと思われる。

七五三について神島では、男女の区別なく三歳のみお祝いを行われる。もともと3歳、5歳、7歳の子どもが現代のように揃って祝う習慣はなかった。七五三が十一月十五日となったのは徳川幕府三代将軍家光が四男徳松（のちの五代将軍綱吉）の5歳の祝いをこの日に行ったことに由来でもあった。神島の七五三は古い風習を未だに残っていることを示している。

厄払いについて「宗教観」をテーマとした読売新聞社の年間連続調査「日本人」からは、「宗教を信じている」が26%で、「宗教を信じていない」の72%が大きく上回った。一方、「厄払いをしに行く」は34.2%で言い伝えなどで一応気にするものは「仏滅の日の結婚式」が43%で最多だった。「友引の日の葬式」42%、「厄年」41%、「葬式帰りのお清め」30%、「北枕」27%が続いた。「どれも気にしない」は19%だった。⁹宗教の信仰心は薄くなってきているが厄年に関する忌み嫌う伝統習慣は相変わらず根強く残っている。特に離島では、「板子一枚の下は地獄」と言われるように生活の危険性が高い漁村では、厄払い儀式が今でも固く守られていることが伺われる。「島内にどんな通過儀礼が残っていると思われる」というアンケート調査結果が示したように「厄払い」が第3位に選ばれたことから明らかにされる。

- c). 通過儀礼の中で出産儀礼以外に著しく変化したのは、結婚式である。「行われなくなった通過儀礼」というアンケートの調査結果も示したように結婚式が第1位に選ばれた。人口の流出により、島同士の婚姻から島外結婚になった。結婚式場の普及、交通の便などの原因で島の伝統的な結婚式が「仮親制度」以外にほとんど消滅した。その代わりに、全国各地にどこでも見られる結婚式場での結婚式になった。

⁷ 永田久『年中行事を「科学」する』日本経済新聞社、1989、pp.70-73.

⁸ 永田久『年中行事を「科学」する』日本経済新聞社、1989、p.105.

⁹ 「宗教心静かに息づく—宗教観本社連続世論調査」読売新聞、朝刊、2008. 5. 30.

d). 葬送儀礼についていくつの変化及び特徴が見られる。まず、離島に限らず、全国各地では、葬式はほとんど葬儀業者に依頼する形になってきたが、神島では、棺、骨壺などごく一部葬儀道具のみ漁業協同組合に買ってもらう。島民たちが互いに助け合って葬儀を行っている。そして、少子高齢化により服喪期間が長くなると行事（主に神社に関わる行事）の担え人が少なくなる。行事を継続するために服喪期間を短縮せざるをえなくなった。それから、他地方よりも高額な香典や簡素な香典返し（礼状1枚のみ）の風習、そして念仏講により葬儀費用の助成などから島における相互扶助の精神が伺われる。伝統的な葬式、服喪の風習がほとんど消えた他地方と較べると神島はまだ、伝統風習を保っている。葬送儀礼における助け合い制度は未だに強く残っている。島全体が一つの家族のように親密に繋がっていることが伺われる。そのため、「どんな通過儀礼が残っている」及び「どんな通過儀礼を一番残してほしい」というアンケート調査結果が示したように「葬送儀礼」はいずれも第2位に選ばれた。

3. 子高齢・過疎化の対策について

近年、深刻な少子高齢化により離島は過疎化に拍車をかけている。平成17年総務省の国勢調査によると、平成12～17年に全国の人口減少率はプラス0.7%（戦後最低の人口増加率）であったのに対し、離島では、マイナス8.2%であった。平成12年に離島振興対象地域の総人口の43.4万人より3.9万人を減少した。また、平成17年に全国の高齢者比率は20.1%（世界で最も高い水準）であったのに対し、離島では、それを大きく上回って32.9%であった。人口500人以下の離島が約7割で将来の無人島化が懸念される高齢化率5割を越える離島が約3割を占めている。¹⁰ 沖縄の石垣島のような「老後の天国」¹¹を除いて大部分の離島は次第に無人島化しつつあり、それらの島々にほとんど関心がもたれていない。しかし、日本の縮図である離島は日本の未来図を先に描いてくれた鏡であるとも言える。

急速な少子高齢・過疎化によって各離島が独自の振興政策を打ち出している。UJターン

¹⁰ 「離島振興計画の進捗状況の取りまとめ」国土交通省、都市地域整備局 離島振興課、総務省 自治行政局 地域振興課、農林水産省農村振興局企画部農村政策課、2007. p1-2.

¹¹ 「安易な移住続々、職なく行き詰まり・・・楽園の困惑—人口急増の石垣島困惑」読売新聞 夕刊、2005, 4,12.

「沖縄県石垣島。台湾の日と鼻の先にあるこの亜熱帯の島では、ここ数年、本土からの移住者が急増している。青い空と海、温暖な気候にあこがれて、首都圏などから島にやってくる人々がほとんどだが、突然、大挙して移住者が押しかけてきたことで、困惑も広がっている。石垣市によると、住民票の異動だけを見ても、一昨年からの島の転入人口は約3,000人も増加している。これに、住民票を異動しないで生活をしている人も含めると、その数は5,000人に達するという。沖縄県全体では、同じ2年間で約5万1,500人が本土から移り住んでいるが、転勤などで沖縄本島にやってきた人も多く含まれているとみられる。石垣市の現在の人口は約4万5,000人」

三重県鳥羽市神島における通過儀礼の変遷 —離島の少子高齢・過疎化について

支援、子育て支援、農漁業後継者の支援条例、学外通学生を受け入れ、島産業の創出、「島を美しくつくる会」の結成、高度情報通信ネットワークの整備などの振興対策である。また、昭和28年に実施してきた離島振興法は今まで何回も改正されてきたが、離島における深刻な少子高齢・過疎化を歯止めをかけることができなかった。特に、最近燃料価額が高騰し続けている。最も交通不便で漁村が多く占めている離島の経済が更に厳しい状況に置かれている。神島もその一つである。

神島の隠居衆制度を政府に無形民俗文化財として申請することに。既に他離島が実施している振興対策を参考しながら、積極的に取り組むべきであると思われる。また、離島振興法では、税制特例措置所得税・法人税の特別償却、所得税・法人税の買換特例、地方税の課税免除に伴う減収補填などの対策があるが、減税策をもっと講じられた方が効果的ではないかと思われる。

海外の例を挙げてみると、イタリア半島の近くにあるフランス領のコルシカ島（Corsica Island）は1990年からフランス政府の離島減税策で再生した。食料品、衣料品、ガソリン、電気、ガスなど生活に関する税金は本島より低く設定された。その結果、住民や観光客が大幅に増え、島の経済産業も振興した。¹²また、台湾の金門島も免税優遇政策によって過去八年來、人口は4割も増加した。2000年3月21日に台湾の国会で離島建設条例の実施を可決した。それによって金門島は対岸の中国本島との交流ができるようになった。同時に島民に免税優遇政策を与えた結果、金門島の人口は2000年の5万1千人から2008年の8万1千人までに増えた。¹³

その他、通過儀礼を対策として島共同体が相互扶助により出生率を上げた例は国内にも見られる。「鹿児島市から南へ約400キロの徳之島は世界一の長寿を生んだだけでなく、「子宝の島」として全国から注目を集めている。徳之島にある三の町（天城町、伊仙町、徳之島町）の平均出生率は全国の上位である。村の人が採れたての野菜や魚、出産祝いなどを手にやってくる。村では、子どもの誕生や初節句などの節目ごとに全員で祝福し、還暦や古希なども一緒に祝う。かつてどこにでもあった支え合いの暮らしが残る。」¹⁴

六. 要約

少子高齢・過疎化が急速に進んでいる神島では、その有効的な対策はあまり見られない。少子高齢・過疎化問題をそのまま放置すれば、将来的に島の特徴である宮持、隠居衆制度などの伝統風習も消えてゆく恐れがある。一つの例として、毎年、お正月4日に伝統的な獅子

¹² 「ヨーロッパの離島は減税で甦った！」『島へ』VOL. 38. 海風舎、07.11.pp.68-pp.69.

¹³ 「小三通免税 金門人4割増加」中国電子新聞、2008. 7.28.

¹⁴ 「豊かさ再発見—支え合い残る「子宝の島」」読売新聞、朝刊、2006. 9. 12.

舞行事が古くから行われてきたが、2007年から後継者がいなくなったので、行事がなくなった。行事が減っていくに伴って神社への賽銭、寺への布施が少なくなった。その結果、寺院の継承、再生が困難になった。

「俳句の島」、「潮騒文学の島」、「恋人の聖地」などを外へアピールしたことにより観光客が増えるが移住者は増えない。また、島民が組織した「島の旅社」は離島の空き家を活用して離島の活性化を計画しているが、リフォーム費用などの原因で効果は多く望めない。今後、神島の人口を減少させないため、大胆な振興策が求められる。神島における伝統的な通過儀礼が伝承できるかどうかその振興策に左右されるだろう。

今回の調査に協力して頂いた以下の方々に心より感謝する。

聞き手：小久保富二（大正14年生）元漁師・隠居衆、細江信一郎（昭和20年生）八代神社
神主、小久保松輝（昭和23年生）漁師、小久保ふみ子（昭和30年生）岬民宿のお
かみさん、小久保肇（昭和30年生）神島郵便局長、藤原喜代造（昭和11年生）元
島羽市議員、元神島漁業共同組合代表理事組合長、藤原ヒヨミ（昭和18年生）喜
代恵民宿のおかみさん

調査時間：2007. 9.10-12、2008. 7.5-6.

参考文献：

萩原法了、萩原秀三郎『神島』井場書店、1973.

財団法人 日本離島センター『離島振興ハンドブック』国立印刷局、2004.

阪井正孝「敬老神話の発生—民俗調査資料に描かれた「敬われる老人達の島」神島—」『皇學館大学社会福祉論集』第5号、2002.

関沢まゆみ『隠居と定年—老いの民俗学的考察』臨川選書、2003.

田辺悟、田辺弥深子『潮騒の島—神島の民俗誌』、光書局、1980.

竹田且『民俗慣行としての隠居の研究』未来社、1964.

穂積陳重『隠居論』穂積陳重奨学財団、大正4年.

東京女子大学民俗調査団『神島の民俗誌—三重県鳥羽市神島町—』東京女子大学文理学部史学研究室東京女子大学学会、2005.

永田久『年中行事を「科学」する』日本経済新聞社、1989.

『日本の島ガイド』(財)日本離島センター、2005.

「三重県離島振興計画 平成15年度～24年度」三重県政策部地域づくり支援室、2003.3.

山内道雄『離島発 生き残るための10の戦略』生活人新書、2007.

尤銘煌、杉山誠「山形県酒田市飛島における通過儀礼の変遷—離島の過疎化、少子高齢化について」『山

三重県鳥羽市神島における通過儀礼の変遷
—離島の少子高齢・過疎化について

形大学紀要（人文科学）』16（2），2007. pp.53-pp.64

和歌森太郎『志摩の民俗』吉川弘文館、1965.

和歌森太郎「神島の村隠居」『歴史、伝承の風土』新人物往来社、1971.

「宗教心静かに息づく一宗教観本社連続世論調査」読売新聞、朝刊、2008.5.30.

「離島振興計画の進捗状況の取りまとめ」国土交通省、都市地域整備局 離島振興課、総務省自治行政局
地域振興課、農林水産省農村振興局企画部農村政策課、2007.

「安易な移住続々、職なく行き詰まり・・・楽園の困惑—人口急増の石垣島困惑」読売新聞 夕刊、2005,
4,12.

「ヨーロッパの離島は減税で甦った!」『島へ』VOL. 38. 海風舎、2007.11.pp.68-pp.69.

「小三通免税 金門人4割増加」中国電子新聞、2008. 7.28.

「豊かさ再発見一丈え合い残る「子宝の島」」読売新聞、朝刊、2006. 9.12.

資料

「離島における通過儀礼の変貌—少子高齢化?過疎化を中心として」アンケート

年齢： 性別： 職業：

1. 現在、島内にどんな通過儀礼（冠婚葬祭などの儀礼）が残っていますか。

（該当するものに○印を付けて下さい。複数選択可能です。）

妊娠の際の帯祝い： 出産祝い： お七夜、命名式： お宮参り：
お食い初め： 初節句： 初誕生日： 七五三： 成人式：
厄払い： 長寿の祝い： 結婚儀礼： 葬送儀礼：

2. 島内で行われなくなった通過儀礼（冠婚葬祭）にはどんなものがありますか。

（該当するものに○印を付けて下さい。複数選択可能です。）

妊娠の際の帯祝い： 出産祝い： お七夜、命名式： お宮参り：
お食い初め： 初節句： 初誕生日： 七五三： 成人式：
厄払い： 長寿の祝い： 結婚儀礼： 葬送儀礼：

3. 島内にどんな通過儀礼（冠婚葬祭）を一番残してほしいですか。

（該当するものに○印を付けて下さい。複数選択可能です。）

妊娠の際の帯祝い： 出産祝い： お七夜、命名式： お宮参り：
お食い初め： 初節句： 初誕生日： 七五三： 成人式：
厄払い： 長寿の祝い： 結婚儀礼： 葬送儀礼：

4. あなた自身が島に住んで一番困っている問題は何ですか。

5. 島が直面している一番の問題は何ですか。

6. 将来、本島へ引っ越すことを考えていますか。

はい： いいえ：

はいと答えた人は理由を教えてください。

7. 将来、祖先代々のお墓を本島へ移すことを考えていますか。

はい： いいえ：

はいと答えた人は理由を教えてください。

8. 島の少子高齢化・過疎化の流れに対してどんな対策が必要と考えていますか。

9. 島の少子高齢化・過疎化について政府はどのような対策を講じていると思いますか。

10. 通過儀礼（冠婚葬祭）を島に残す一番の方法は何であると思いますか。

参考写真：



杖をついている隠居衆と宮持

The Change in Rites of Passage on Kamishima Island, Toba City, Mie Prefecture—The case of a depopulating and aging society

Arnold van Gennep (1873-1957) was the first founder to note regularity and significance of people's live events and his phrase for these, "the rites of passage," has become a part of the language of anthropology and sociology in Japan. The rites of passage examine not only in rites but also in family, relative, social problem, religion and so on.

On the one hand, It's could be predict the future of Japan by studying the Japan's epitome of isolated island. Also, we could find some hint which Japan going to face a lots of subjects by examine the isolated island.

Similarly, Tokai area located in the middle between east culture and west culture. That means average culture and character of Japan could be found by examine the Tokai area. Especially, Look at the interaction between the traditional custom (The rites of passage) and depopulating, aging society by the field trip investigation of Mie prefecture Toba City Kamishima which represented the isolated island in Tokai area.